

日本工学院専門学校	開講年度	2019年度	科目名	プレゼンテーション
科目基礎情報				
開設学科	ITスペシャリスト科	コース名	モバイルアプリ専攻	開設期 後期
対象年次	1年次	科目区分	必修	時間数 30時間
単位数	1単位			授業形態 実習
教科書/教材	30時間でマスタープレゼンテーション+PowerPoint2016(実教出版)			
担当教員情報				
担当教員	井上 正也	実務経験の有無・職種	有・システムエンジニア	
学習目的				
<p>社会人に一番必要となる素養はコミュニケーション能力と言われている。コミュニケーション能力が必要とされる場面は、マンツーマンで一人の相手と対応する場合、プロジェクトグループなど少人数の集団の中でのコミュニケーション、そして1対多数を相手とするプレゼンテーションの場面などである。この授業では主に多人数相手のプレゼンテーション技術と心構え、更にプレゼンテーション資料を作成するための道具であるPowerPointの基本操作を習得することを目的としている。</p>				
到達目標				
<p>自分に与えられた条件を吟味し、プレゼンテーションに必要なものを整理できるよう。聞き手に伝わるためにはどのようなストーリーで、どのような資料を作成するのかなど、良いプレゼンテーションを行うためのアイデアが出せるようになる。資料作成ツールであるPowerPointが使いこなせる。特にビジュアルコンテンツを有効に活用できる。実際にプレゼンテーション(ライトニングトーク)を行い、人前で発表できる。就職活動や卒業制作発表時に役立てることができる。</p>				
教育方法等				
授業概要	<p>プレゼンテーションのアイデア出し(ブレインストーミング、カード化など)を行い、プレゼンテーション全体のストーリーを作る。PowerPointで効果的な資料作成を行う。プレゼンテーションを実施する。個人発表とグループ発表を行い、個人またはグループごとに振り返りを行う。聞き手はチェック表などを記入し他者評価を行う。発表者は自分をビデオ撮影し自己評価を行う。両者とも発表者に対してフィードバックを行う。</p>			
注意点	<p>授業中の私語や受講態度などには厳しく対応する。欠席は基本的に認めない。授業に出席するだけでなく、社会人として働くことを前提とした受講マナーで授業に参加することを求める。課題によってはグループでの作業を行うため協調性も評価の対象となりうる。プレゼンテーションを聞く態度も評価の対象となりうる。でなお、授業時数の4分の3以上出席しない者は定期試験を受験することができない。</p>			
評価方法	種別	割合	備 考	
	試験・課題	20%	試験と課題を総合的に評価する	
	小テスト	0%		
	レポート	0%		
	成果発表 (口頭・実技)	70%	授業時間内に行われる発表方法、内容について評価する	
	平常点	10%	積極的な授業参加度、授業態度によって評価する	
授業計画(1回～15回)				
回	授業内容	各回の到達目標		
1回	プレゼンテーション概要	プレゼンテーションの必要性、プレゼンテーションの作成方法が理解できる		
2回	プレゼンテーションのストーリー	プレゼンテーション全体のストーリーのまとめ方、情報収集の仕方が理解できる		
3回	PowerPoint操作(1)	簡単なプレゼンテーションシートが作成・編集できる。スライドショーができる		
4回	PowerPoint操作(2)	グラフが作成できる。写真、動画、音声など、ビジュアルコンテンツが作成できる		
5回	PowerPoint操作(3)	アニメーションを使って効果的なプレゼンテーション資料を作成できる		
6回	ストーリーシート完成(4)	提示された発表課題に対してアイデアをまとめる。ブレインストーミングができる。カード化できる		
7回	ストーリーシート完成(5)	(1)で出されたアイデアを「プレゼンテーションストーリーシート」にまとめることができる		
8回	発表資料の作成(1)	ストーリーシートに基づき、PowerPointを使って発表資料を作成できるようになる		
9回	発表資料の作成(2)	発表者に伝わる効果的な発表資料にまとめられる		
10回	セリフ作成、リハーサル(1)	発表資料を基にプレゼンテーションのシナリオが作成できる		
11回	セリフ作成、リハーサル(2)	プレゼンテーションのリハーサルを行い、改善点をフィードバックできる		
12回	プレゼン実施。他者評価(1)	プレゼンテーションを実施し、自己評価および他社評価ができる		
13回	プレゼン実施。他者評価(2)	プレゼンテーションを実施し、自己評価および他社評価ができる		
14回	プレゼン実施。他者評価(3)	プレゼンテーションを実施し、自己評価および他社評価ができる		
15回	評価と改善	ビデオによる自己評価ができる。聞き手からのフィードバックを素直に聞き入れ改善できる		